十和田市立　新渡戸記念館だより

◀新渡戸十次郎役を熱演した坂田倫靖さん（中央）。十次郎と村人（田中義則さん、沢田一三さん、和田有希子さん、中沢さなみさん）のふれあいを描いた一場面（当日の最終リハーサルにて）

「ふるさとを思いつづけるかぎり十次郎は生きつづける」という▶メッセージをキャスト全員で歌い上げたフィナーレ

市民ミュージカルで新渡戸十次郎物語を上演

２月29日午後２時から十和田市民文化センターで新渡戸十次郎の生涯を題材にした市民ミュージカル「志を繋ぐ者―新渡戸十次郎物語―」が上演されました。市民ミュージカル制作委員会による本作品は、脚本は遠田康久さん、演出は仲島みちるさんが行ない、当館としても脚本段階から協力しました。十次郎役の坂田倫靖さんはじめキャスト、スタッフのみなさんも記念館を訪れ、三本木原開拓や十次郎について学びながら制作に取り組んでいました。

新渡戸十次郎像▶

知られざる新渡戸十次郎の人物像を描く

新渡戸十次郎は現在市の中心部となった十二町四方碁盤の目状の都市計画や産業開発に尽力した三本木原開拓の立役者ですが、政治犯の疑いをかけられた失意から病となり、志し半ばにして47歳の若さで亡くなっています。今回のミュージカルで題材にとりあげられたことで、父の傳に比べ知られていなかった十次郎の生涯を多くの方が知る機会となりました。また、十次郎が行なった大規模な都市計画について父の傳が内心反対しながら、親の開拓を受け継いでくれたのだからそれだけでも喜ぶべきだとして、反対を口にすることを思いとどまり、十次郎の思うままにやらせたことなど、知られざるエピソードを織り交ぜ、十次郎の人物像を描き出していました。

◀三本木へ向かい旅をする新渡戸傳（相馬敏光さん）と従者たち（幸良武史さん、若沢智さん）の一場面

郷土に根ざす作品つくる十和田市民ミュージカル

十和田市教育委員会と十和田市民文化センターが主催する十和田市民ミュージカルでは平成２年の「とわだ民話フェスティバル～八郎太郎とバッコ石～」を最初に、14年間地域の民話や歴史をモチーフに、市民の手でミュージカルを上演しています。今回の「志を繋ぐ者－新渡戸十次郎物語－」の前には、平成９年に稲生川への上水の歴史を題材にした「稲生川物語」を上演しており、ミュージカルを通して郷土の歴史を次世代に受け継ぐ努力を続けています。演出担当の仲島みちるさんは十次郎像を「そこに住む人の気持ちを大切に町づくりを進めた行動力あふれる魅力的な人物」として描き、様々な歌や踊りを入れて構成することで、多くの人に楽しんでもらえるようにと工夫されていました。

演出を担当した仲島みちる▶さん（最終リハーサルで）

文化財防火デーにさきがけて消防訓練を実施

昭和24年1月26日、世界最古の木造建築・法隆寺で火災があり、金堂壁画が焼損したことから、国では毎年1月26日を「文化財防火デー」と定め、文化財を災害から守ることを呼びかけています。今年は第50回の文化財防火デーにあたり、それにさきがけて23日8時45分から当館で文化財防火デー消防訓練ならびに自衛消防訓練を行ないました。訓練には十和田消防署の前川原署長他消防隊員、団員、レスキュー隊員と記念館員ならびに事務局職員等総勢約30名が参加し、1階展示室東側で火災が発生したという想定のもと、観覧者の避難誘導、救助隊による文化財の搬出、放水車での消火等の訓練を行ないました。

◀訓練のため太素塚参道に集まった消防車

元旦

馬で記念館へ年賀状配達

元日の朝、"駒の里十和田市"にちなみ、十和田郵便局は、当館などに馬で年賀状を配達しました。日本郵政公社として初の年始を記念する事業で、十和田乗馬倶楽部の協力により、明治20年代の郵便集配人姿の同倶楽部メンバーが白いポニーの手綱をとり、郵便局員とともに配達を行なっていました。配達員から年賀状を受取った館長は「何事もウマくいくといいですね」と挨拶し、ポニーの頭をなでて労をねぎらいました。

元日の朝、記念館に向かう▶配達員のみなさん

◀配達員から年賀状を受取った新渡戸館長

博物館実習生レポート
―10日間の実習を終えて―

平成15年度第2期博物館実習では、常設展示改善と子供用パンフレットの作成を行なってもらいました。

北里大学獣医畜産学部4年生　長谷川　洋　司

実習では、短期間でしたが様々な体験をさせていただき、多くのことを学ぶことができました。特に印象に残っているのは、悪戦苦闘した子供用パンフレットの作成です。日頃何気なく見てきたパンフレットが、完成するまで陰でどれだけの時間がかけられているか、これまで考えても見ませんでした。しかし、実際自分で作成してみると、文章が難しい、文字数が多いなど多くの問題点を指摘され、理解しやすく且つ内容の濃いものにするために何度も修正し、やっと完成をみました。施設の情報を分かりやすくパンフレットにまとめることがいかに難しいか、身をもって知ることができたのは本当に良かったと思います。人に何かを伝えることは簡単そうに見えて難しく、それを様々な方法で行なうのが学芸員の役割なのだと実習を通して教わったように思います。博物館の基本は、来館者の側に立って考えることだと実習中何度も言われましたが、この言葉に人に何かを伝えようとする場合の一つの答えが隠されている気がしました。また、教えていただいた新渡戸稲造の言葉「学問より実行」は、北里大学建学の理念である「叡智と実践」に通じるところがあり、不思議な縁を感じました。実習で学んだ一つ一つを忘れることなく、今後に生かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、忙しい中快く実習を受け入れて頂いた記念館職員の皆様、ありがとうございました。本当に良い経験になりました。

▲実習生の長谷川さん（中央）とともに

課題で作成した子供用▶パンフレット

裏打ち資料紹介

新渡戸稲造の母方の一族
盛岡・伊東家ゆかりの資料　鹿角郡花輪通大絵図

稲造の母・せき
（伊東家より嫁ぐ）

新渡戸稲造
（8才頃）

このたび裏打ちの完了した資料から、新渡戸稲造の母方の一族、盛岡の伊東家ゆかりの資料をご紹介します。

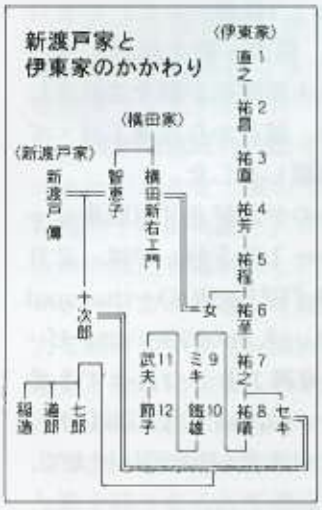
鹿角郡花輪通（現在の秋田県鹿角市花輪）を描いたこの絵図面は、明和6年（1769）11月に花輪御代官・相坂忠兵衛、岩舘五郎左衛門の命により作成された絵図から、天明7年（1787）3月に伊東祐程が作成した写しで、古い時代の花輪通の村々や街道の様子などが詳しくわかります。

伊東家からは新渡戸十次郎に、せきが嫁いでおり、その三男が稲造博士です。そのような両家の交流から新渡戸家文書の中にこの絵図が残っていたと思われます。

資料名：鹿角郡花輪通御絵図
年代：天明7年（1787）
縦：301.5cm　横：278.0cm

伊東家の歴史

盛岡藩の「参考諸家系図」によれば、伊東家は初代直之が丹波笹山城主織田信勝の家臣で、主君の死後お家断絶となり、浪人中江戸で南部重直に200石で仕えました。二代目祐昌は三代藩主重信に御徒頭に登用され、三代祐直は五代～七代藩主に仕え出世しましたが、江戸から盛岡に向かう途中御添状を紛失し、その責により禄を取り上げられました。しかし後に「本来正直者で勤務も宜しいから」と許され200石に復しています。八代藩主利雄の御用人、嫡子利謹の守役にもなり、81歳の時、利謹より唐木の鳩の杖に和歌を添えて賜り、加増され300石となりました。四代祐芳、五代祐程とつづき、祐程の孫・祐之の娘・せきが新渡戸十次郎に嫁いでいます。



▲詳細に書かれた花輪城下の部分

伊東家については伊東節子さんより資料を提供頂きました。

映画「ラスト・サムライ」で『BUSHIDO』ブーム？

大ヒット映画「ラスト・サムライ」の監督エドワーズ・ズウィック監督が映画制作の参考になった書として『BUSHIDO』をあげたことから、『BUSHIDO』が静かなブームをよんでいます。12月28日付毎日新聞インタビュー記事にズウィック監督は、10代に『BUSHIDO』を読み「理想的な生き方と思った」と語っていました。また主人公を演じたトム・クルーズも演技にあたって『BUSHIDO』を参考書としたことも話題となりました。

記念館でも好評発売中▶

ありがとうございました

市内在住の工藤智己さんより国語教科書『小学文林』（巻上／明治12年／盛化堂 版）１冊を寄贈いただきました。

関　連　情　報

◆南小学校４年生今井翔一くんの新渡戸稲造についての感想文が最優秀賞に

青少年読書感想文県コンクールで、南小学校４年生今井翔一くんの『ぼくもいつかは「小さなかけ橋」に』が最優秀賞を受賞しました。今井くんは「太平洋のかけ橋新渡戸稲造」（保永貞夫 著／講談社）を読んで、自分も身近な国際交流を通して「ちいさなかけ橋」になりたいという夢を書いていました。

◆フォーラム「官庁街せせらぎコイの旅」へ太素顕彰会共催として協力

稲生川の水を活用した官庁街の水路に平成14年度より上北地方農林水産事務所有志が鯉を放流していますが、３月６日フォーラム「官庁街せせらぎ鯉の旅～地域資源の活用を考える～」が開催され、太素顕彰会も共催団体となり、当館佐々木学芸員が総合司会をつとめました。

◆テレビで関連番組の放映つづく

青森県内各地域についての難問奇問に答えるクイズ・情報番組「わくわくゼミナール」（青森テレビ）の２月14日放送「青森県の誕生」で、幕末～明治維新の県内の主な出来事の１つとして三本木原開拓が紹介されました。クイズ「ワクゼミQ」では、館長から穴堰工具・てんばづるについてのクイズを出題しました。

また、フジテレビ番組「お厚いのがお好き？」（関東ローカル／毎週木曜日深夜０時35分～１時５分）では、２月５日の放送で新渡戸稲造の著書『BUSHIDO－the soul of Japan－』をとりあげました。人気のお笑いコンビ・アリ to キリギリスが、名著を毎週１冊づつ紹介する番組ですが、海外でベストセラーになった『BUSHIDO』を海外でもっともポピュラーな日本食・お寿司に例えて、要点を楽しく紹介していました。

◆平成15年度青森県冬季観光シャトルバス奥入瀬号が当館に乗り入れ

平成15年度青森県冬季観光シャトルバス奥入瀬号（ＪＲ八戸駅→十和田湖休屋）のルートに当館が入り、それにより２月６日～29日に約600名が来館されました。

◀シャトルバスで訪れた来館者のみなさん

活　動　報　告

◆館長講演会

12月20日

名川町歴史研究会平成15年度第二回冬期歴史講演会
（名川町立剣吉公民館／演題：新渡戸氏の歴史）

12月26日

十和田警察署歴史講演会
（十和田警察署／演題：三本木原開拓よもやま話）

◆元朝参り

2003年12月31日深夜から2004年１月１日早朝まで、太素塚への元朝参り参拝者に甘酒、お神酒の無料サービスを実施しました。比較的暖かい天候も幸いして多くの参拝客が太素塚にあつまり、甘酒も早いうちに配り終りました。

◆博物館実習生受け入れ

１月20日～30日に北里大学獣医畜産学部４年生長谷川洋司さんが学芸員資格取得にかかわる実習を行いました。

（詳細２面）

◆子供用館内案内パンフレットのコピー配付を開始

２月から子供用の館内案内パンフレット「新渡戸記念館へようこそ」（博物館実習生作成）のコピー配付を開始しました。

〈編 集 後 記〉

発刊から９年、続けてこられましたのも市民の皆様のご理解あってのことと存じます。これからも分かりやすい「だより」を目指して続けていきたいと思います。

「花輪通絵図」公開の折はぜひご覧ください。

発　行　太　素　顕　彰　会
十和田市立新渡戸記念館
〒034-0031 青森県十和田市東三番町24-1
ＴＥＬ（ＦＡＸ）0176-23-4430
E-mail:nitobemm@hi-net.ne.jp
http://www.towada.or.jp/nitobe/
印　刷　有限会社 岩 間 印 刷 所